

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	法人理念に基づき施設の目標はあるが、グループホーム独自の理念は作成していなかった。	ユニット会議にて職員一人ひとりが考える目標を挙げてもらい、現場職員の視点(目指す方向性)をグループホームの理念として作り上げた。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	法人理念については、新入職員研修で理解を深める機会を設けている。また、ミーティング時日々のケアの内容が理念に添っているか確認しあっている。理念を部署目標、個人目標に反映させている。	部署目標の振り返りはしているが、個人目標の点検ができていないため、理念の実践に向けて定期的な点検をしていく
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	施設内の見えるところに掲示している。	毎月のお便りに1項目ずつ法人や事業所の理念を載せて理解を広めていく
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩の途中、近所の人たちと挨拶や会話を交わしたり、野菜、花苗を分けていただき、育て方のアドバイスをもらったりという交流を日常的に行っている。	次年度より町内会に加入し、交流を深めていく。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町の花植えボランティア、夏祭り、敬老会、収穫祭、町内マラソンの応援、初詣等に参加した。また、町内の中学生が15名、福祉体験で2回施設に訪れ交流している。町のサークル、有志の人が施設のホールに書道、絵画を展示している。	町内会としての行事参加も進めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町と連携して介護者教室を開催し、地域住民を対象に認知症の理解、接し方の勉強会を行っている。		専門職として活用してもらえよう、老人会や民生委員等の会議に参加していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価説明会に管理者、計画作成担当者が参加し、意義について職員に説明を行った。その上で、職員全員で自己評価をおこなった。		今回が初の外部評価となるため、結果を活かし、今後の改善に取り組みたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に会議を実施し、利用者やサービスの実際を報告している。また、メンバーから意見、要望をもらい改善につなげている。地域との交流、行事計画についての意見やボランティアとしての協力もいただいている。		地域の消防隊、離設の連絡網等の整備をしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1度、行政との連絡会議で情報交換している。町役場の全職員に施設を見学してもらう機会を設けた。また、日常的に現場の様子を伝えたり、見てもらう機会があり、アドバイスを受けている。		今後も地域包括支援センターとの情報交換を深め、事例検討会等も行いたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	関係者と話し合い、必要な人に権利擁護事業の活用を支援している。また、町の福祉関係者合同研修会で成年後見制度について学ぶ機会がある。現在、自立支援事業を利用している人は1名いる。		今後、成年後見制度を活用する人がおり、職場内でも勉強会を開き、職員の理解を深めるようにしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が研修会、勉強会に参加し理解を深め、高齢者虐待防止に努めている。		スピーチロック等意識付けるため、今後も定期的に勉強会を行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、重要事項説明を丁寧に行い、利用料金や起こり得るリスク、退居を含めた施設の対応可能な範囲について説明を行っている。利用者の状態変化により契約解除に至る場合は家族と相談している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、その時々を利用者の不安、意見等についてミーティングで話し合い、改善に努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ユニットごとに発行する写真入りユニットだよりと担当職員による個別のお便りで、家族に利用者の生活の様子、状況を伝えている。買い物支援、金銭出納に関しては利用者の状態に合わせて家族と連絡をとっている。また、月1回、明細の報告を行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>施設内に複数箇所、意見箱を設置したり、利用者、家族にアンケートを実施し、出された意見をサービスに反映させるしくみを作っている。また、面会、カンファレンス時、電話による家族連絡時などに意見を聞くようにしている。</p>	<p>アンケート調査の結果、苦情受付窓口がわかりにくいとの回答があった。苦情処理の手順を掲示する。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃からコミュニケーションを図るように心がけたり、毎日のミーティング、毎月のユニット会議、部署会議、職員会議で意見を聞くようにしている。</p>	<p>愚痴なのか、改善事項なのかよく見極め、感情的にならず仕組みとして反映させていく。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>24時間365日必ず複数の職員で対応できるように職員を配置している。また、職員の急病、急な休みに対応できるよう、管理者はできるだけ通常のシフトに入れない勤務を組み、利用者の状態変化等にも対応できるようにしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアを心がけているが、対面ユニットの利用者とも馴染みの関係をつくり、いつでも対応できるよう業務内容を工夫している。</p>	<p>勤務異動については本人の希望がない限り最小限としていく。新人については担当を決め対応していく。</p>
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>各種マニュアルは整備し、見やすい場所に設置してある。</p>	<p>実際に使いこなせるよう、内容についての周知を図っていききたい。また、変更は速やかに行っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で行われる研修や外部の研修になるべく多くの職員が参加できるようにしている。また、自己啓発のため個人的に参加する外部研修の費用を年間上限を設け事業所が負担している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域ケア会議、地区GH協議会に参加し、情報交換を行っている。法人内ではGH連絡会を設け、毎月情報交換と職員間で交換研修を行っている。また、利用者を含めた交流会も行っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的に職員同士が交流を持つ機会を設けている。また、管理者は適宜面接を行っている。</p>	<p>法人が大きいので法人としてのレクリエーション活動を活発にし、他の事業所との交流をしてもらってストレス解消に役立てたい。管理者はメンタルケアの研修に行くように勧めている。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>目標管理をもとに、委員会活動や自分の役割、資格取得を支援している。実績により昇格の対象としている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前訪問、事前面談で利用者本人がおかれている状況や生活状況を把握し、不安をできるだけ軽減できるような言葉かけや話をよく聴くことを心がけている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族は何に困っているのか、入居に対する不安や要望をきちんと聴くように努めている。また、利用に至るまでの家族の体験や思いを理解しながら話を聴くように心がけている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、本人、家族の必要としている支援を見極め、必要に応じて地域包括支援センターとの連携を図ったり、他のサービス利用を提案している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にホーム内を見学していただいたり、顔なじみの他の利用者と一緒にお茶を飲んでもらうことで安心してサービスを開始できるように配慮しているが、事情により、いきなりのサービス開始となってしまった場合もあった。		できる限り本人が安心して、納得してサービスを開始できるような工夫と、本人、家族への働きかけを行っていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理補助、掃除、洗濯物などの家事を手伝っていただいたり、料理の味付けや献立はお客様から教えていただくなど相互に支え合う関係を築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りや面会時、家族に状態の報告や意向の確認をしている。行事の際も家族に連絡し参加していただけるように働きかけを行っている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ケアプランに家族との面会や外出を取り入れ行っている。カンファレンスにも声をかけ参加していただいたり、来設されない家族には電話で様子報告や意向の確認をしている。		家族のカンファレンスへの参加が増えるようにカンファレンスの日程を組んで対応していく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お客様が今まで通っていた理・美容院に通っていただいている。地域の行事へも参加できるよう支援している。いきいきサロン(町事業)への参加も継続している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	会話しづらい方の代弁をしたり、耳の聞こえない方に筆談・ジェスチャーなど工夫してコミュニケーションを行うなど、お客様同士の関わりを手助けしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	対象者がいないため実施していないが、入院にて退居となった方については状態について伺い、報告していただく関係が続いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から情報を得たり、本人との日常の関わり、会話の中から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等について家族から聞き取りや本人との会話の中から把握するように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケア記録、ミーティング等で情報を共有し、一人ひとりの有する力、心身の状態、希望を把握し、本人にあった生活リズムを把握できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望、意向を聞き介護計画に反映させるようにしている。また、職員全員がアセスメント、モニタリング、カンファレンスに関わっている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族に参加を呼びかけ、概ね3か月ごとにモニタリング、カンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。また、それ以外にも状態に変化が生じた場合は必要に応じて見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録や日々の様子、状態変化、気付きを個別記録に記入し、職員間でいつでも確認できるようになっている。業務に入る前には確認することになっている。		本人の言葉、職員の気付きを大切に、本人の生活の様子がより伝わりやすい記録を心がける。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算を取っているので急変時の対応が可能である。家族の協力も得ているが、職員は定期受診、急変時の受診も対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居したことにより留守となっている自宅の管理について、担当の民生委員が必要な連絡をとってくれている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	町の事業で以前から利用していた「いきいきサロン」へ入居後も参加継続できるよう支援している。また、本人の希望に応じて訪問理美容サービスを利用してもらっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは支援に関する情報交換、協力関係を築いており、権利擁護については社会福祉協議会の担当者と連携している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に町外にかかりつけ医を持つ場合は家族に対応をお願いしているが、町内の受診は職員が支援している。ほとんどの利用者はかかりつけ医が町の協力病院となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	町の協力病院の認知症に詳しい医師に相談したり、月1回、町が行っている専門医による認知症相談を利用したりしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が定期的に利用者の健康状態を確認し、夜間でも体調変化や急変時は電話で連絡し、指示を仰ぐことができるような体制になっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院医療機関と連携し、情報交換や相談したり、カンファレンスに参加し、早期退院ができるように努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師の診断、本人、家族の希望を受け止めて話し合っている。		重度化に伴う意思確認書を作成し、本人、家族に説明したうえで確認を行っていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の対応については、自分たちがどこまでできるのか検討している段階である。		自分たちのできること、できないことを見極め、十分な説明を行った上で、本人、家族の希望があればできる限り希望に添えるような体制づくりを検討したい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	該当者がいないため取り組みはない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄時間(間隔)を把握し、オムツに頼らずトイレで排泄できるように取り組み2名がリハビリパンツから布パンツへ移行した。排泄用品も個人に合ったものを使用している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お客様に希望を聞きながら夜間浴も実施している。また、楽しむ工夫として入浴剤やゆず風呂などを行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を支援することで夜間眠れるように配慮している。昼寝や夜間の入眠時間も異なるため照明の明るさやテレビの音量に注意している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人のできることを見つけ、ケアプランに挙げることで全職員が周知し役割が担えるように配慮している。生活の楽しみや気晴らしのために外出や好きな活動の提供、行事の企画を行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が使える方には買い物の際、支払いをしていただいている。紛失の可能性もある為お小遣い程度の金額を手元に置き、他は金庫預かりにするなど個人に合わせて対応している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	最低、月1回は戸外へ出られるようにドライブ・散歩・買い物にお誘いしている。定期受信は往診でなく外来受診することで地域の方と会う機会を設けている。希望時は外出できるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事や企画で普段行けない場所へ外出できるよう支援している。 10月バス旅行にて群馬へ行き家族の参加もあった。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時や家族から連絡があった際は取り次ぎを行っている。手紙については年賀状書きや返事書きを行った。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時、居室で過ごすかリビングで過ごすか伺い、ゆっくりと過ごしていただけるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの整備と、勉強会を行っている。身体拘束は行っていない。		グループホームにおける拘束とは、という点で具体的な事例や行為をあげて更に周知を図っていく
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全上、必要な時間以外は鍵をかけずに見守り、目配りで対応している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室内での事故が心配される方に対しても暖簾をつける等、居室が丸見えにならない工夫をしている。所在についてはプライバシーやプライドに配慮しながら見守りをしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品については目につかない、もしくは手の届かないところに置いている。包丁・スライサー・ハサミなど刃物は取扱いに注意し使用時は必ず職員の見守りで行っている。室内への持ち込み品については全てを手元から無くすのではなく状態を観察し、その方の危険認識に合った預かり方をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと、事故報告についてミーティングし対応策の検討をしたり、月末には傾向と対策を話し合い、未然に防げるよう取り組んでいる。		リスクマネジメントの視点についてなど勉強会を開催していく。 防災訓練の回数を増やし定期的に行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルはあるが、内容の理解には個人差がある。		緊急時の対応、救急法の対応について定期的に勉強会を開催する。普通救命講習の受講。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域との協力体制は不十分であり、今後取り組んでいきたい。		定期的な防災訓練の実施。 運営推進会議、その他を利用し地域との関係・協力体制を深めていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	居室は、入居時の情報収集にて危険の少ないレイアウトを検討している。 事故発生時は家族に状況や対応策の説明をし、理解や協力を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定をし、体調観察をしている。特変時には報告し、必要時は看護師にも連絡し対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りに服用できるように支援している。		薬の副作用について理解を深めていく。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質や乳製品の提供。 体操や散歩など体を動かす機会を設けている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人に合わせて見守り・声掛け・介助等している。		定期的な口腔内のチェックと歯磨き指導の実施。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	BMI値や医師の助言を基に食事量や水分量を決めている。必要な方にはチェック表を用いている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルに沿った対応を実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎日消毒作業を行っている。食材については納品時の検品と賞味期限のチェックにて新鮮で安全なものを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇作りを利用者・近隣の方とともに行った。		冬場の玄関周りの工夫
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの装飾で季節が感じられるようにしたり、活動時間で作成した手作りの物や作品を展示することで話題や活動の意欲にもつなげている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	構造的に物を置くスペースがないため、テーブル2席と畳スペースのみであるが、利用者は席を移動し思い思いに過ごされている。		廊下などの空間の有効利用

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で使用していた使い慣れた物を持ち込んでいただいている。入居後も必要な物は取りに自宅へ行く支援もしている。 本人・家族と相談しながら居心地よく、また安全に過ごせるよう整備している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンについては設定温度の目安を表示し全職員が分かるようにしている。換気は毎食後、また適宜実施している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	筋力に合わせて食事の席を検討したり、居室内のレイアウトを変更し使いやすいようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレは同じ所を勧めることで覚えていただく。また、居室には暖簾を掛けトイレとの違いを出している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	春～秋は花壇や菜園を実施した。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・地域との関係作りのため、地域行事や地域事業へ参加している。
- ・地域ボランティアとの交流